五日市剛

Tsuyoshi Itsukaichi

オリンピック選手から小学生まで、さまざまな人に
大きな影響を与えた『ツキを呼ぶ魔法の言葉』。
その著者である五日市剛さんが
本誌のために語ってくださった言葉の数々。
シンプルな語り口の中に、
英知とユーモアが溢れ出ており、
絶大な人気をもつ理由が納得できます。

五日市剛
Tsuyoshi Itsukaichi

1964年7月、岩手県二戸市生まれ。
豊橋技術科学大学大学院博士後期課程修了。
1988-89年に米国マサチューセッツ工科大学へ留学。
工学博士。某大手企業で新規事業および
研究開発に従事し、その後自ら会社を興す。
現在、数社の顧問も兼任しており、
新技術および新規事業の創出に関わっている。
26歳のときのイスラエル旅行での出会いがきっかけで
人生がガラリと好転。
その講演録「ツキを呼ぶ魔法の言葉」
（とやの健康ヴィレッジ刊）は
口コミで120万部突破の大ベストセラーとなり、
その関連図書を含めると、累計で300万部を超える。

「ツキを呼ぶ魔法の言葉」のメカニズム

取材・文◎賀来由理
Interview & Text by Yuri Kaku

慌ててカメラを向けて撮影！

取材を始める前、五日市さんは「ちょっと面白いものをお見せしてから始めるので、お札を持ってください」と言われました。何をなさるのかと不思議に思いながら千円札を出すと、五日市さんは両手のひらを合わせてから手をだんだん離していき、エネルギーボールを作って、その中でお札を空中浮遊させてしまいました。しばらく空中でふわふわさせて遊んでいたので、「そうだ！　証拠を」と、慌ててカメラを向けて撮りましたが、時すでに遅く、お札は着地寸前。

言葉を使わない「ツキを呼ぶ魔法」を実演してくれた後、〝『ツキを呼ぶ魔法の言葉』の秘密〟を、本誌のためにたっぷりと語ってくださいました。

自分に語りかける感謝の言葉をただ伝えているだけ

――五日市さんのお話は、日本人が近年忘れてしまった大切なことを思い出させてくれるものですね。

五日市　ありがとうございます。そもそも、このような話が全国的に広がってしまうなんて夢にも思っていませんでした。「ただ、イスラエルのおばあさんから教えていただいたことをお伝えしているだけ」というスタンスは、いまも変わりません。僕のオリジナリティがあるわけではないし、

「ツキを呼ぶ魔法の言葉」のメカニズム

五日市 剛

Tsuyoshi Itsukichi

僕自身、人格者でも偉い人間でも何でもないわけです。

僕がお伝えしている魔法の言葉とは、単に、良いことがあったら「感謝します」、嫌なことがあったら「ありがとう」、「こうなりました、感謝します」と言うと言った通りになりやすくなる、これだけのことです。自分に語りかける感謝の言葉です。

僕は、こういうことを伝えて世の中を良くしようと思っているわけではありません。何の使命感もありません。

あるところで喋ったことが勝手にテープに録られてダビングされ、どんどん広がってしまいました。やがて活字にされ、その文章のコピーもどんどん広がり、ネットにも無断掲載されました。そして、小冊子『ツキを呼ぶ魔法の言葉』が有志によって作られ、ほんの数年間で120万部も世に出ました。書店で販売しているわけでもないのに、口コミだけで……。ホント、信じられません。

その間、いろいろな出版社から執筆の依頼が来ましたが、きっぱり断りました。僕は作家ではありませんし、このようなことで生計を立てようなんて思っていませんからね。各出版社は、「ご自分で書かなくてもいいから出版させてください」と、あの手この手で交渉してきました。電話インタビューに応じて答えたことが活字化されて、手帳や日めくりカレンダーになりました。さらに、対談本や絵本が作られたりと、断る理由がないものは出版する運びとなりました。

その結果、累計でなんと300万部突破。ほんの4～5年の間にです。僕は一冊も書いてないのに〝五日市剛著〟と表示されたものもあり、出版社のうまい戦略だなと思いました。

ただ、どうも「魔法の言葉」について曲解した読者が少なくないようなので、あらゆる誤解を払拭するために自分できちんと本を書かなくては、と思っているところです。

ありがたいことに、これまで知識人や専門家の方々が色々な知恵を与えてくださり、「魔法の言葉の効果は、こういうメカニズムでは……」とサポートしてくださるのですね。そうすると僕も「自分が伝えていることは、決してズレてはいないんだ。間違いなく普遍的な真理だ」という思いが深まるわけです。

それから「魔法の言葉を実践して、こんな素敵な経験をしました」と体験談が数多く寄せられました。特に興味深いのがスポーツ界。プロゴルファーの石川遼くんをはじめ、ボクシングチャンピオンや大相撲の横綱、オリンピックのメダリストなど、魔法の言葉が幅広い分野でお役に立っているようで嬉しいです。スポーツの世界は実力の世界ですから、効果が早いし、わかりやすいのですよ。

本来の自分の良さを取り戻す智慧のようなもの

五日市　魔法の言葉はとてもシンプルですが、奥の深い実践哲学だと思います。本当にすごいと思っています。

ただ、「それを唱えても宝くじが当たらなかったじゃないか」とピントはずれなことを言う人はときどきいます。魔法の言葉というのは、無から有を生じさせるような〝魔法〟ではなく、本来の自分の良さを取り戻す智慧のようなもの。あるいはコツコツと努力して実力をつけてきた人に、最も実りある結果をもたらすきっかけを与えてくれるものです。

とはいえ、当初は講演を依頼されると気が重かったです。〝言葉〟という目に見えない世界の話ですから、聴く側にとっては、偏った精神世界あるいは変な宗教のように誤解する方がいます。僕は、学者の端くれとして信用第一の仕事をやっていますから、もし変に人間性を疑われたら、仕事上不利益を被ります。だから、最初の頃の講演というのは非常に消極的で、呼ばれたから仕方がなくお伺いしてお話ししていたんですね。「もう止めよう」「もう止めよう」と思ってやっていたのですが、全国数カ所から「講演活動を止めないでほしい」と署名がドッと送られてきましてね。「あなたの話は、皆の心の底上げになるんです。とても大事な話をされているんですよ」と言われました。僕は複雑な心境でしたが、やはり嬉しい気持ちが大きかったですね。「もう少し続けようか」となりました。

このように、魔法の言葉の話は、もともと意図的にしたわけでも何でもなくて、図らずしもどんどん広がっていったわけです。

人間関係を円滑にし、夢や希望を叶えるきっかけに

五日市　以前、こんなお便りをある女性からいただきました。

「母は声を失う手術の予定でした。
その3日前、五日市さんの本に
出合いました。
2人で〝ありがとう〟を唱えました。
3日後、手術の必要が
なくなりました。
母はいまも元気に
賛美を歌っています。
目の不自由な母に、
声を残してくださったのは、
五日市さんです。他にもたくさん。
ありがとう、ありがとう。
感謝をこめて」

短いお便りでしたが、何度読んでも泣けて仕方がありませんでした。

エルサレム：旧市街にて
（2008年再訪時）

な実感が、日々募ってきました。

感謝のエッセンスを加えると言霊の効力が高まる

——魔法の言葉は、現代社会が疎かにしてきた心の部分を補ってくれているのかもしれませんね。

五日市　日本には古代から〝言霊〟という概念が定着していますね。つまり、言葉には霊的な力が宿ると信じられ、声に出した言葉は現実の事象に対して何らかの影響を与えると考えられています。良い言葉を発すると良いことが起こり、不吉な言葉を発すると凶事が起こるとされました。

〝言霊〟は〝言魂〟とも書けるそうで、良い言葉には良い魂が、悪い言葉には悪い魂が宿る、ということのようです。本当に言葉に魂が宿るならば、われわれが喋った言葉は意思をもち、勝手にひとり歩きするかもしれません。

日本人は、他の国々の人よりもこうしたことに理解があり、われわれの遺伝子の中に入っているから、魔法の言葉の話が広がりやすいのかもしれませんね。

僕は、魔法の言葉を教えてくれたイスラエルのおばあさんが言ったことを自分との約束事として守りました。だからこそ運が付くのだろうと勝手に思っているんです。もちろん、もちろん、僕に感謝する必要なんてありません。ご自身でどんなことにも素直に感謝の言葉を発したことで、日頃の言葉と想いを大きく変えられた結果だと思います。

このようなお便りやメールを毎日たくさんいただいています。本当にありがたいです。

魔法の言葉は、使い方次第では間違いなく即効性がある。努力している人にとっては、大きな味方となる。人間関係を円滑にし、夢や希望を叶えるきっかけとなる。そして何よりも幸せ感を増してくれる……そんなおばあさんが本当に〝普遍的な真理〟を語ったのかどうか、僕にはわかりませんでした。でも、愚直にも魔法の言葉を唱え続けていたら、目の前の現実がどんどん好転してきた。たまたま僕にだけ起こったことかと思いきや、友人や家族、世間一般の方々や、いまでは有名人やプロスポーツ選手に至るまで、この効果を実感するに至っています。

そこで思うのは、言霊に感謝のエッセンスを加えることで、言霊の効力をぐんと高めることができるのでは、ということです。さらに言霊と感謝の質を高め、より融合させることで、われわれの人生がもっともっと有意義で楽しいものになるんじゃないかなと思います。

何にでも感謝できる心が幸せの源泉

五日市　〝魔法の言葉〟は、確かに当時の僕にとっては魔法の言葉だったのです。それを口ぐせにすることで、僕の普段の言葉は随分良くなりましたし、ひどい言葉も発しにくくなりました。それとともに仲間が増え、運気がアップ。辛いと思われるようなことでも、容易に乗り越えられるようになりました。魔法の言葉のおかげで、僕自身かなり成長できたと思います。

そして、いま振り返って思うことがあります。こんなこと言うと、ずっこけるかもしれませんが、あえて言いますと「ツキを呼び込む魔法の言葉なんて本当にあるのかな？」ってことです。感謝の言葉はもちろん大事。でも、自分にとって運を切り開くために大事な言葉が他にも沢山あるんじゃないかな、と思うようになりました。状況によりけりで言葉は違うでしょうがね。

たとえば、必要以上に自分を責める人っていますよね。一生懸命努力したけれども「入試に失敗した」「自分のミスでチームが負けた」「大切なお客様を怒らせてしまった」など。もうバカバカバカ……って自分を自分で責めてひどく傷つけてしまう、これは良くないですよ。もちろん反省はした方がいい。それ以上に状況の分析をしっかりやって、同じミスを繰り返さないようにしたいですね。その際、あくまでも感情的にならず、クールに解析するんです。とはいえ、つい感情的になって自分を責めてしまう人が意外と多い。自分を責めたって、何もいいことはありません。そんな人にとっての魔法の言葉があるとしたら、おすすめは「まっ、いいか」。こう自分に言うと、心が軽くなり、必要以上に自分を責めなくなります。起こってしまったことは、じたばたせず、受け入れるしかない。深刻にならず真剣になる。自分をあまり責めても仕方がないのです。

「ツキを呼ぶ魔法の言葉」のメカニズム

五日市 剛
Tsuyoshi Itsukaichi

このように、自分を元気にしてくれる言葉、ときには不安とか心配を払拭してくれるような言葉、足が進まない自分の背中をポンと押してくれたり、自身を励ますような言葉、その一つひとつが〝自分にとっての魔法の言葉〟であり、そのときの自分に本当に必要な言葉なのだと思います。

だから、落ち着いて考えてみると〝これさえ唱えていればツイてくる〟という特定の言葉（魔法の言葉）なんて、本当にあるのかな？　状況に応じて自分に最もふさわしい言葉があるはずだ、って思うようになったんですね。

とはいえ、「ありがとう」「感謝します」といった感謝の言葉は、本当にすごいと思っています。だって、どんなときにも使えるではないですか。嫌なことがあっても、いいことがあっても、自分に呟ける言葉。そうすることによって、感謝の想いがどんどん深まり、何にでも感謝できる心が育まれます。実はその「なんにでも感謝できる心」こそが〝幸せの源泉〟なんですね。その意味からも、感謝の言葉は万能で最強の魔法の言葉と言えるでしょう。

自分の発する言葉が人生に大きな影響を及ぼす

五日市　人間はいろいろなレベルの人がいます。〝魔法の言葉〟と出会った当時の僕なんて、底辺にいてもがき苦しんでいました。底辺にいる人たちは言葉の汚い人が多いし、言葉に出して言わなくても意識がひどい人が少なくありません。だから、イスラエルのおばあさんから「まず、いい言葉を喋りなさい。人間は言葉通りの人生を歩むのよ」って言われたんでしょうね。

20世紀最大の奇跡の人と言われたエドガー・ケイシーは、「人は、しゃべったひと言ひとことと必ず出合う」と言いましたが、われわれの口から発せられる言葉が、われわれの人生に大きな影響を及ぼすことを暗示した名言のように思えます。もしこれが本当だとしたら、ひどいことはもう言えないですよね。

そういえば、リッツ・カールトン日本支社長の高野登さんが従業員教育に最も力を入れていることは、「日常的にネガティブな言葉を使わないこと」だと聞きました。それが、サービスの質を高め、成功するのに一番簡単な方法だということに気づいたそうなのです。

とにかく、つらい日々が多くて悩んでいる人は、ネガティブな言葉を控えてみてはいかがでしょうか。それが、最初のステップですね。次は、いい言葉を他人にも自分にもどんどん発する。特に感謝の言葉を。そこまでできたなら、あとは継続あるのみです。

その次には、どんなステップがあるのでしょうか。恐らく心の問題、意識の領域だと思います。

言葉の進化を促すには行動するのが一番

五日市　今度は意識そのものをもっと進化させる必要があると思います。イスラエルのおばあさんは、手紙の中で、

「心のもち方って大事よ。だけど、もっと大事なのはね、言葉の使い方なの。どんなことを口に出すかであなたの目の前の状況が変わってくるし、あなたの心も変わってくるの」

と述べていました。心よりも言葉が大事……本当でしょうか。恐らくこれは方便だと思うんですね。当時、言葉の汚い僕にとっては、最も適切なアドバイスだったと思います。この手紙を読んで、まず言葉をなんとかしようと真剣に思いました。そして、やがて何とかなったわけです。すると今度は、自動的に意識の域に踏み込みます。

意識というのは、たとえるなら海のようなもの。海は広くて深いですよね。それに対し、言葉とはそこに浮かんでいる島のようなもの。だって、心で思っていることを全部言葉にしようと思ってもできませんよね。たとえば、素敵な男性を見つめてはにかんでいる少女のいじらしい気持ちを、すべて言葉や文章で表現できるでしょうか。できるのは、ほんの一部だけでしょうね。それだけ意識というのはものすごく広くて深い。それに対して、言葉というものはちっぽけな存在です。

だからまず、その言葉から入ります。プラスの言葉、感謝の言葉をタイムリーに言ってみましょう。意識の方へ少しずつ影響が及んでいきます。ただ、口でパクパク言っているだけだとなかなか意識には伝わりません。この場合、行動が決め手です。喋った言葉に見合った行動をとるのです。そうすると、言葉が生きてきますし、やがて進化します。言葉の進化を促すには、行動が一番です。行動なき言葉は弱く、やがて消え去ってしまいます。

これを持続していると、感情が伴ってきます。感情が伴って来ると、広くて深い意識の世界への影響が大きくなり、無意識にイメージングできるようになります。すると、言葉や行動がさらに進化し、それらから意識への影響もより大きくなるわけです。

本当の感謝とは、心からあふれ出る感謝の想い

五日市　魔法の言葉というのは、感謝の言葉。目の前の人に言うと普通の感謝の言葉ですが、自分に言うと魔法の言葉になります。嫌なとき

エルサレム：オリーブの丘で、旧市街をバックに
（2008年再訪時）

は「ありがとう」、良いことがあれば「感謝します」。つまり、どんなことがあっても、なんにでも感謝しなさい、というのがイスラエルのおばあさんの教えでした。

良いことがあったら「感謝します」は口に出ても、嫌なことがあったときに「ありがとう」なんて簡単には出てきませんよね。それでもすぐに言いなさい、と教えられたのです。仮に言えたとしても、もちろん口先だけ。心は込められません。最初はそれで良いのですが、やはり何か行動が必要です。

目の前の人に厳しく注意された、としましょう。「ちくしょう、腹が立つ」。でもすぐに自分に「ありがとう」。すると、不思議とそれ以上腹が立ちません。言葉だけでなく、即行動。注意をしてくださった方の元へ出向き、深々と頭を下げ、謝罪したとします。そして、二度と注意を受けないよう、今後留意すべきことを相手にうまく伝え、さらに注意してくださったことに感謝するのです。相手の方はとても感心するでしょうし、そんな行動をとった自分も「よっしゃ！」とガッツポーズ。そして腹が立ったときにすぐに呟いた「ありがとう」がそのきっかけであるので、その意義をかみしめ、「本当にありがとうだよなぁ」と感じると思います。

このように、嫌なことがあっても、前向きな行動が伴った感謝の言葉は、結果的に感謝の想いを深めることになります。魔法の言葉、恐るべし！

このような習慣を身につけると、たとえ嫌なことがあっても、あとあと心が元気になり、感謝で満たされることが増えてきます。

言葉は島のようにちっぽけだと言いましたが、まさにその「ありがとう」という小さな言葉は、何らかの具体的な行動が伴うことで感情を生み、海のように広くて深い意識の世界に影響を与えて、感謝の想いを深めます。すると、それが言葉や行動に作用し、お互いに高め合う。こうした「言葉―行動―意識」の相互作用が感謝の体質を作っていきます。やがて、足のつま先から頭のてっぺんまで、身体中が感謝でいっぱいになることがあります。すると、心から言葉にならない感謝の想いがあふれてきます。実はこれが「本当の感謝」。つまり感謝の本質だと思うのです。本当の感謝とは、「ありがとう」とか「感謝します」といった言葉ではありません。言葉から意識に及んだ結果として、心からあふれ出る感謝の想いそのものなんですね。

まず最初は、プラスの言葉感謝の言葉を喋りましょう

五日市　「ありがとう」の反対は何でしょう？　と質問されたことがあります。はて、想像もつきません。答えは「当たり前」ですよ、と言われました。本当にそれが正解かどうかはわかりませんが、なるほど、と唸りました。日頃、感謝することがないから「当たり前」なのだろうなと思いました。

われわれは〝二本足で歩ける〟とか〝呼吸する〟というのは、普段当たり前だと思っています。こうしたことに対して、なかなか感謝なんてしません。でも、自分の足でトイレに行けなくなったときには、いろいろと大変な思いをしますね。再び歩けるようになったときには、本当に感謝の想いが湧いてくるものです。呼吸困難になったときもそう。そのときに初めて、「健康だったときは、どれだけ幸せだったことか」と気づきます。普通に暮らしている生活がどれだけありがたいか、ということですね。一度死にかけて臨死体験をした人などは、人生観がガラっと変わると聞いたことがあります。いま生きていること（あるいは生かされていること）自体、感謝でいっぱいになるのでしょう。

そのような人たちは、「当たり前の自分に感謝」できるようになります。何事も決して当たり前と思わずに、感謝感謝。その想いが身体中いっぱいとなり、心からは感謝の想いが溢れ出る。もう言葉にならない感謝の想いです。

われわれも日頃「当たり前」と思っていることに自然と感謝できるようになれば、もう魔法の言葉は必要ないと思います。意識が感謝で満たされた状態だからです。

ですから、そうなるまで、魔法の言葉を大いに活用されてはいかがでしょうか。まず最初のステップ、相手にも自分にも「プラスの言葉・感謝の言葉を喋りましょう」……となるのです。

感謝すればするほど我欲は無くなっていく

五日市　言霊の力を信じているという女性がしょんぼりして僕の所に来たことがあります。彼女はトヨタの新型プリウスが欲しいので、抽選に応募して「新型プリウスが当たりました！」と、ずっと言い続けたそうです。雑誌に載ったその車の写真を見ながらイメージを膨らませて、「当たりました！」と言い続けていたら、なんと、道路を走行中に、新型プリウスに当てられたそうなんです。後ろから。言った通りになりました。（笑）

これって、嘘のような本当の話なんですが、さて、いったい彼女に何が足りなかったかというと、言うまでもなく「感謝」なんですね。「当たりました！」だけだと欲の塊です。そうした欲は執着を生み、苦の元凶となります。とはいえ、人間であるからには欲は完全には無くなりません。でも、

「ツキを呼ぶ魔法の言葉」のメカニズム 五日市 剛

Tsuyoshi Itsukaichi

少しずつ減らすことはできます。

「欲を減らすには感謝の言葉を発すると良い」と竹田和平さんに教えてもらいました。この方は日本一の個人投資家として有名な方です。「感謝すればするほど我欲が無くなっていく」そうです。これが本当なら、すごい話です。

魔法の言葉の使い方のひとつ、「○○になりました、感謝します」という言い方。これでおわかりの通り、「○○になりました」だけで終わらずに必ず「感謝します」と続けるんです。それによって、我欲が減るきっかけを作り、同時に言ったことに対する確信が高まりやすくなります。

そして、彼女にもうひとつ足りなかったものがあります。何だと思いますか。彼女は繰り返し、「新型プリウスが当たりました」としか言いませんでした。言霊ってすごいですね。言った通り、当たったわけですから。(笑)　彼女には具体的な言葉が足りなかったようですね。たとえば、「新型プリウスが当たって両親をドライブに連れて行くことができました。親孝行できて感謝だわ！」というような、イメージしやすい言葉が必要だったのです。

高められた意識が言葉と行動に影響を与える

五日市　おばあさんは、単に「○○になりました、感謝します」と言っていればそうなる、とだけ言ったわけではありません。「その心でしっかり確信してその言葉を言いきることができたら、言った通りになるわよ」と付け加えました。

さて、どうしたら確信というものを高めることができるのでしょうか？　僕は確信と欲とはシーソーのような関係にあると思っています。つまり、欲が高まると、確信は低くなる。逆に欲を軽減させると確信はどんどん高くなる、というもの。もしそうであれば、欲はどうしたら削り落せるものなのでしょうか。竹田和平さん曰く、感謝の言葉、つまり「ありがとう」といった感謝言葉を相手にも自分にも発していると、感謝の想いが深まり、意識の海の中に感謝の波動が広がっていきます。すると、意識の中のいろいろな欲がどんどんと軽減され、同時に喋った言葉の確信が高まります。

そして、感謝をベースとした何らかの具体的な行動がさらに確信の高まりに加速を与え、言ったことが叶いやすくなります。

〝言葉〟と〝行動〟が想いを深め、感情として〝意識〟に働きかける。高められた意識は逆に言葉と行動に影響を与え、お互いをより高め合って、いわば〝言霊〟の効力を増すと考えています。さらにその言霊に〝感謝〟のエッセンスを加えることで、欲が削られ、確信が高まり、言霊が現実に及ぼす影響をぐんと高められるかもしれません。

――なるほど。ところで、そのおばあさんは、本当に亡くなったのですか。

五日市　亡くなっていると聞いていたのですが、実際のところ分からないですね。一昨年の夏に、18年ぶりにイスラエルを訪れた際、おばあさんが住んでいた家に行ってみました。そしたら、当時のままの状態でした。玄関の表札にはおばあさんの名字が掲げられ、ベルを鳴らしてもドアをノックしても、何の応答もありません。近所に住む人たちに聞いてみたら「あそこには高齢のおばあさんが住んでいますよ」とのこと。おばあさんがもし生きていたら90才ぐらいだと思います。

来年、もう一度イスラエルに行く機会がありますので、おばあさんの家に寄ってこようと思っています。

自分に起こることはすべて自分にとって良いこと

五日市　実は、イスラエルにはもう一人のお世話になったユダヤ人女性・Aさんがいらっしゃいます。Aさんは大変教養のある敬虔なユダヤ教徒です。Aさんがまだお元気なうちにお会いしたいという気持ちがあり、イスラエルを再訪したんですね。

Aさんに、魔法の言葉を教えてくれたおばあさんのことを詳しく話しました。

「嫌なことがあったら〝ありがとう〟。いいことがあったら〝感謝します〟。これはイスラエルに伝わる伝統的な考え方なんでしょうか？」

するとAさんは、しばらく考えて、「それはね、五日市さん。なにもユダヤ教の教えというわけではないわ。キリスト教の人も仏教の人も、みな共通する、幸せに生きるための大切な智慧だと思うわ」

僕は、何かすごいことを教えていただいたような気がしました。

「Aさん、僕はときどき、実は〝自分に起こることはすべて自分にとって良いこと〟じゃないかと思うことがあるんですね。だから、なんにでも感謝。嫌と思われることにも〝ありがとう〟。違いますか？」

Aさんはニッコリ笑って、

「そう考えたらいいわ。すべて正しいってね。起こることすべて自分にとって」と、静かにうなずきました。

僕はこれを聞いたとき、嬉しさでいっぱいでした。この言葉を聞くために再びイスラエルに来たのだと思いました。

同時に「オレって間違ったことを言っていなかったんだな」と腹の底に落ちましたね。